

まもれますか？ ペットの健康と安全



ペットは私たちを楽しませ、心を豊かにしてくれます。
ペットがいる安らぎは、何ものにも代えがたいものです。
でも、楽しんでいるのは人間だけ…
…なんてことになっていませんか？

心の健康

生活の質も考えましよう

餌と水を与え、住環境を整えれば全てのペットが健康に過ごせるわけではありません。ペットの精神面での健康も考慮しなくてはなりません。

仲間

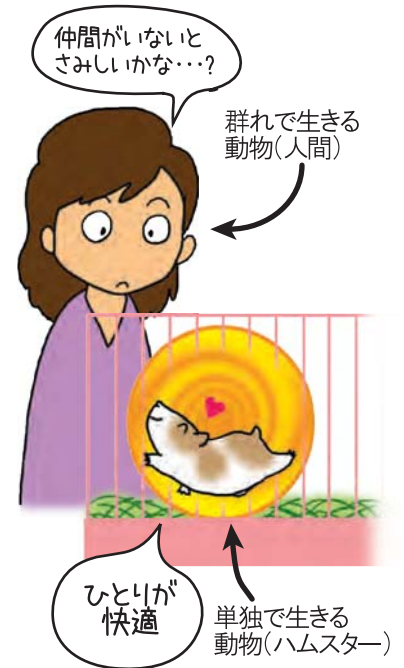
群れで生きる種類のペットは人を含めた「仲間」が必要ですし、単独で生きる種類のペットは一匹で過ごせる時間や環境が必要です。群れで生きる種類でも、過密な状態はストレスになります。異なる種類のペットと一緒に飼うときには、他の種類の鳴き声やにおいがストレスになることもありますから、特に注意が必要です。

おもちゃ

ほとんどの動物は、野生の状態では餌を探すことに一日を費やしますが、食住が与えられているペットには、おもちゃを与えたり、飼い主と遊ぶなど、代わりに時間をつぶせる工夫が必要です。犬のように社会的な動物は、外へ散歩に連れ出したり、適切なしつけやエクササイズをするなどのコミュニケーションが心の健康のために必要不可欠です。

問題行動

心の健康を損なうと、常同行動（意味のない同じ行動を繰り返すこと）や自傷行為（自分の毛や羽毛をむしったり、体の同じ場所をなめ続けて傷を作ってしまうなど）、吠え続けたり破壊行動などの問題行動として現れることがあります。これらは飼い主にとっても困った問題ですが、一番苦しむのはペット自身です。



大地震、巨大台風、火山噴火、洪水など天災に見舞われた時、ペットの命を守るのは飼い主です。

備え

災害で騒然とした雰囲気の中では、ペットは興奮して思いがけない行動をとるかもしれません。いつもはおとなしいペットが我を忘れて人に危害を及ぼしたり、逃げ出して戻ってこないなどの事態も考えられますから、被災しにくいように飼う場所を工夫したり、逃げ出したりしないように施設を補強しておきましょう。大型動物、猛禽類など、危険な動物を飼っている場合は、特に注意しなくてはなりません。万一の迷子に備え、ペットにはマイクロチップなどの身元を示すものを必ずつけましよう。

避難

自宅から避難しなくてはならない事態になることもあります。犬や猫などの小動物は飼い主と一緒に避難する「同行避難」の自治体もありますから、避難場所はどこなのか、ペットを連れて行くことはできるのかなど、住んでいる地域の防災計画を確かめておきましょう。避難所ではたくさんの被災者が生活することが予想されます。中にはペットが嫌いな人やアレルギーをもつ人もいますので、普段からペットは清潔にし、必要なしつけをするなど、他人に迷惑をかけない配慮がペットの安全につながります。



ふだんからクレートを寝床にしておけば...



いざという時もストレスを減らせる

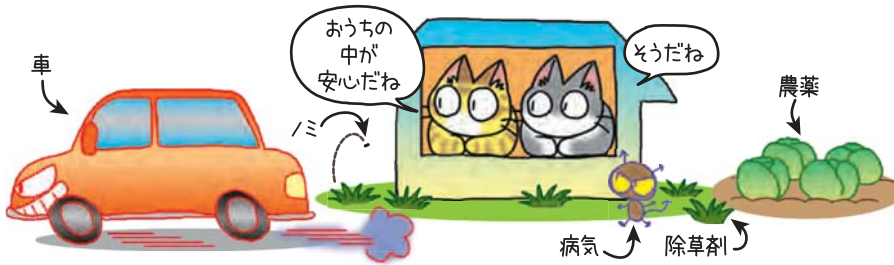
突然の災害

普段からの備えが大切

交通事故、排ガス、有毒物質、農薬、他の動物、毒のある植物、動物をいじめる人、盗難など、外には危険がいっぱいあります。

外飼い

外出自由の猫など、ペットを放し飼いにしている飼い主は、これらの危険にペットをさらしていることを忘れてはいけません。車の怖さを知ったとき、食べたり触ったりしたものが毒だと知ったとき、ペットは命を落としているかもしれません。ペットは家の中や囲いの中で飼って、外の危険から守るのも、飼い主の責任です。



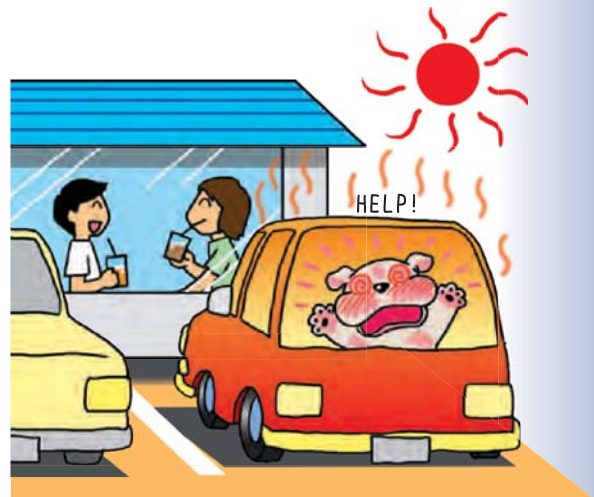
交通事故に遭った外飼いの猫

散歩

外出先では、予測できない事態が起きて、ペットが驚いて逃げ出したり、思いもかけない行動でケガを負うこともあります。買い物中にお店の前にペットをつないでおくと、誰かに傷つけられたり、連れ去られてしまうかもしれません。散歩中に放すことは、ペット自身にも周りの人にも危険です。外出中は、リードでつないだり、ケージに入れて目を離さないようにしましょう。暑すぎる時間帯の散歩は避けるなどの配慮も必要です。

旅行

車、電車、航空機などでの移動中はペットにとって過酷な環境になることもありますから十分注意しなくてはなりません。特に、車の中は高温になりやすく、汗をかけないペットは容易に熱中症になってしまいますから、厳重な注意が必要です。短時間でも、ペットだけを車内に残して車を離れてはいけません。熱中症は夏だけの病気ではなく、気温や湿度が高く、空気の通りの悪い環境ではいつでもなる危険があり、命を奪うこともあります。



身元表示

外出先では思いがけない事故でペットが迷子になることもあります。万一来に備え、ペットには必ずマイクロチップや名札など、身元を示すものをつけましょう。犬などしつけのできるペットは、マテや呼び戻しなどのしつけをしておくことも大切です。

ペットの気持ち

一緒に旅行したり、ドッグランに行ったり、お花見に連れて行ったり・・・ペットも外出を楽しんでいればいいのですが、楽しいのは飼い主だけで、ペットにとってはひどいストレスになっている場合もあります。ペットを連れて出かける前に、本当に

ペット自身が楽しめるか、ペットの気持ちになって考えてみましょう。安心できる慣れた自宅に置いて世話はペットのシッターに任せたり、信頼できるペットホテルに預ける方が、一時的に飼い主から離れるとしてもペットにとってはいい場合もあります。



繁殖

ほったておくのは無責任

子孫を残すことは生き物の本能です。
しかし、ペットとして人と一緒に暮らしている以上、
本能に任せて自由に繁殖させるわけにはいきません。

飼い主責任

飼うスペースや世話をする人手には限りがありますから、数を増やしてしまった結果、過密になったり世話が行き届かなくなるようでは、ペットの健康や生活環境を悪くして苦しめることになってしまいます。無計画に繁殖させることは、ペットを愛しているように見えて実は、生まれる子にも、親となるペットにも無責任な行為なのです。生まれた子の全てに健康と安全を保障できないなら、繁殖させるべきではありません。

バースコントロール

今回は出産をやめておこうなど、ペットは自分で繁殖をコントロールすることはできません。オスとメスを別に飼うなど、飼い主が繁殖をコントロールしましょう。繁殖は本能行動ですから、発情しても交尾できないことがストレスになったり、オス同士ではメスやなわばりをめぐってケンカでひどい傷を負わせたり、殺してしまうことすらあります。不妊・去勢手術をして繁殖にかかわるストレスをなくすことも、ペットの健康と安全を守るひとつの方法です。



こんなことはないよね!

不妊去勢

不妊・去勢手術は、生殖器の病気（子宮蓄膿症、精巣腫瘍など）や性ホルモンに関係する病気（乳腺腫瘍、前立腺肥大など）を予防する効果もあります。

医療

予防と速やかな受診が大切

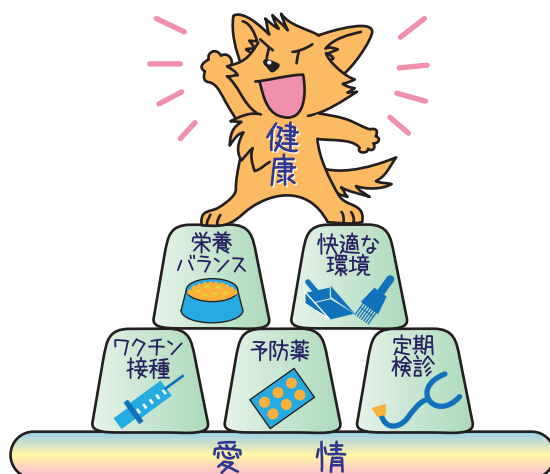
ペットは自分から病院に行くことはできません。
予防を第一に行い、異常があるときはすみやかに
獣医師に相談しましょう。

早めの受診

ペットが明らかに具合が悪そうなときには、病気はかなり深刻な状態になっていると考えなくてはなりません。特に小動物や小鳥など小さいペットや、子犬子猫などの若いペットは、状態が悪くなるのが早いので、一刻の猶予もありません。毎日の世話と観察で異常を見つけたら、様子を見るようなことはしないですぐに獣医師に相談しましょう。

予防

病気にさせてしまう前に、予防することが一番大切です。ワクチン接種や犬フィラリア予防薬、寄生虫の駆虫・予防、定期的な検診などは忘れずに行いましょう。食生活や住環境も健康維持の重要な要素です。栄養バランスのとれた食餌を与え、適切な住環境で病気やケガを予防しましょう。



ペットはどこが痛いということはありません。
むしろ、ぎりぎりまで具合が悪いことを隠そうとします。
飼い主が毎日よく観察して、早く異常を見つけることが大切です。

観察

体の状態、行動、元気、仕草など、見た目や動きに異常はありませんか？食欲や食べる量、飲水量に異常はありませんか？異常な抜け毛（羽毛）やフケなどが落ちていませんか？フンや尿の状態や回数、量に異常はありませんか？毎日よく見て、排泄物はすぐに片付けて清潔を保ちましょう。



スキンシップ

人に触られることがストレスにならないペットは、毎日全身を触りましょう。皮膚の張りや毛（羽毛）の状態、触られた時のペットの反応などから、健康状態を知ることができます。首輪など、ペットが身につけているものもよく見ましょう。古くなっていないか、汚れていないか、きつくはないか、ゆるくはないか・・・不適切な状態はペットに危険です。

ブラッシング

定期的なブラッシングやシャンプーもペットの健康を保つためには必要です。ペットの種類に応じて適切に行いましょう。動物だからといって汚いままにしておくと、見た目が悪くペット自身も不快だけでなく、皮膚病や寄生虫などの病気の元になります。ペットの体を清潔に保つのも飼い主の義務です。



トリミング

トリミングが必要不可欠なペットもいます。このような種類のペットをトリミングしないで放置すると、伸びた毛がからみあい、毛布のようになって、皮膚の病気や痛みでペットはとても苦しむことになります。トリミングが必要なペットは人間がそのように作ったのですから、きちんと世話をする責任があります。



トリミングを怠るとこんな状態に・・・



トリミングは
ぜいたくじゃないよ
ボクには必要な
ことなんだ

食べ物

種類とライフステージに応じた適切な食餌を与えましょう

ペットは人とは違った生き物ですから、必要な栄養も当然違います。飼い主がペットの種類に応じて、必要な栄養素、栄養バランスのとれた適切な食餌を適切な回数与えなくてはなりません。

人の食べ物

ペットを溺愛するあまり、人と同一視して人の食べ物を与えてしまっていないか？体の機能が異なるペットに人の食べ物を与えていると、栄養バランスが崩れて健康を損ねてしまいます。人の食べ物はペットには絶対与えてはいけません。また、普通に人が食べている食材の中には、ペットの種類によっては中毒を起こすものがあるので、注意が必要です。

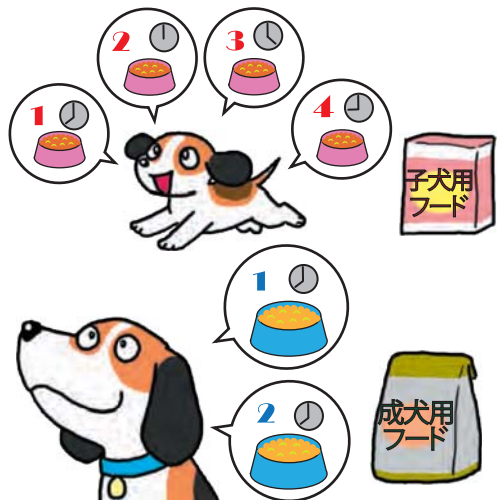
カロリー・塩分

ペットは、お菓子などの甘いものや脂分の多いもの、塩味の強いものを好む傾向があります。これは、ペットの先祖がまだ野生の状態だったとき、カロリーの高い食べ物（糖分や脂分）や塩分は自然の中にはあまりないため、それらを多く含む食べ物を見つけたときには真っ先に食べるように進化したためです。ペット用に販売されているおやつも、嗜好性を高くするために、高カロリー、高塩分になっているものがあります。これらのものをペットが好むからといって、多く食べさせていると、肥満や糖尿病や歯周病など、さまざまな病気の元になり、結局はペットを苦しめることになってしまいます。



栄養バランス

人は自分でダイエットしたり、栄養バランスを気にしたりできます。しかし、ペットは与えられたものを本能に従って食べるだけです。食の安全と健康は飼い主が考えなければなりません。同じペットでも若い時と年をとってからでは必要な栄養バランスや食餌回数が変わってきます。小鳥や小動物など体の小さいペットは、1日食餌をとらないだけで命にかかわることもあります。肥満や痩せすぎ、栄養バランスの崩れなど、食べ物による病気はすべて飼い主の責任です。

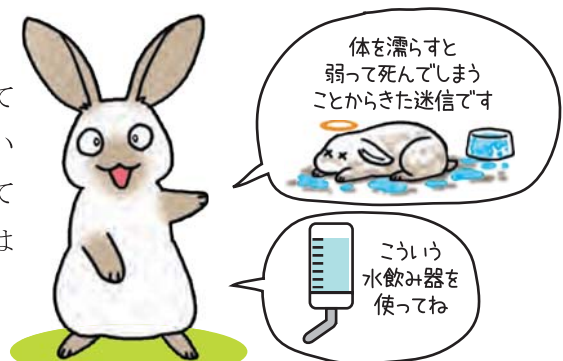


総合栄養食

一般的なペットでは、ライフステージに合った総合栄養食が市販されていて、体重ごとの給与量や給与回数が明記されています。定められた用法を守り、賞味期限内に使用するようにしましょう。

水

水は全てのペットにとって、生きていくために必要不可欠です。いつでも新鮮な水が飲めるようにしておかなくてはなりません。ウサギに水をやってはいけないというのは誤りです。



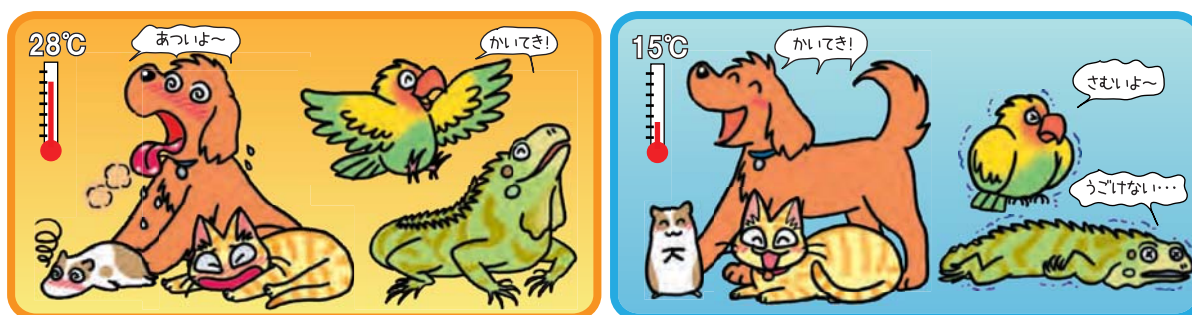
住環境

種類に応じた適切な住環境を整えましょう

ペットは種類によって、生理、生態、習性が違います。健康に飼うためには、それぞれの種類にふさわしい環境や施設を用意しなければなりません。

温湿度

人なら、暑すぎたり寒すぎたりすれば、冷暖房や衣服で調節したり、快適な場所に移動することができますが、ペットにはできません。哺乳類のほとんどは、人間のように全身から汗をかいて体温を下げるできませんから、高温の環境では熱中症になりやすく、命にかかわることも少なくありません。爬虫類には温湿度、紫外線などの環境に敏感なものが多く、種類によって、ヒーターや紫外線灯なども必要です。人が快適と思える環境がペットの種類によっては苦痛となることもありますから、それぞれの種類に適した温度と湿度の環境を整えましょう。



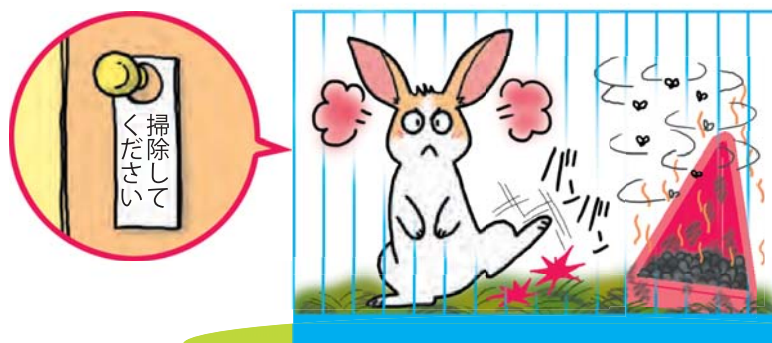
施設

飼養施設に必要な広さや設備もペットの種類によって異なりますから、その種類に適したものを用意しましょう。例えば、犬は歩きまわられる平面的な広さが必要ですから、短い鎖でつなぎっぱなしにしたり狭いケージに閉じ込めっぱなしにしてはいけません。猫は立体的な高さが必要ですから、キャットタワーなどで飛び乗れる場所を作らなくてはなりません。ハムスターは一日に 10km 以上走るのので、安全な回し車などをケージに用意することが必要です。先の尖ったもの、不安定なもの、口にしたら危険なものなどがペットのそばにありませんか? 思わぬ事故につながるものや、破損や故障がないか、定期的に点検しましょう。ペットの数が多すぎて過密な環境も大きなストレスになりますから、飼養する場所の広さに適した数にしないでなりません。



掃除

糞尿や食べ物の残りかす、抜け毛・羽毛やその他のゴミなどの放置は、悪臭やハエの発生などで近隣の迷惑になるだけでなく、ノミや回虫などの寄生虫や病原微生物の温床となり、ペットの健康に悪影響を及ぼします。飼い主がこまめに掃除をして、不衛生にならないように気を配らなくてはなりません。住まいが汚れたからといって、ペットは文句を言うことも自分で掃除することもできません。



あなたはペットの健康と安全を守れていますか？



CHECK!



マイクロチップや名札をつけている



遊んだりおもちゃを置いている



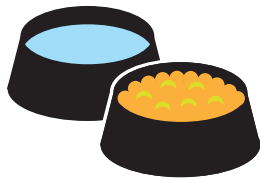
必要な社会的接触がある



快適な寝場所がある



バランスの取れた餌と新鮮な水を与えている



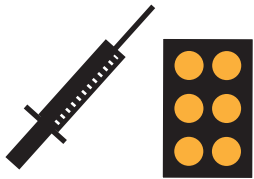
ブラッシングで体をきれいにしている



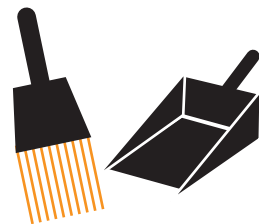
かかりつけの獣医師がいる



ワクチン、定期検診などで病気を予防している



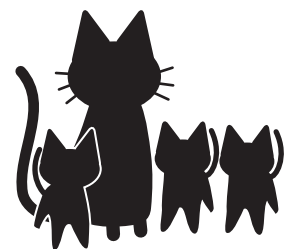
毎日きれいに掃除をしている



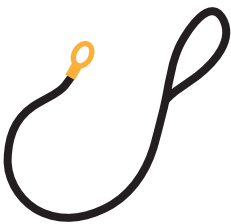
必要な運動をさせている



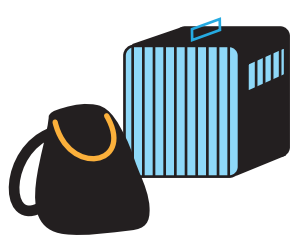
むやみに繁殖させない措置をしている



外出の時はリードをつけたりケージに入れている



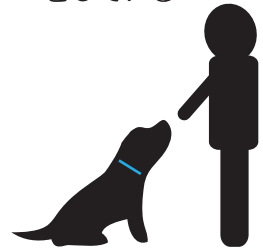
万一の災害に備えている



フンと尿は毎日観察して片付けている



必要なしつけや訓練をしている



環境省

発行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室

所在地：〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2

<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/>

編集・デザイン：つしまみかこ

平成 20 年 9 月 発行

平成 27 年 3 月 (第二版)

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

地球のいのち、つないでいこう



生物多様性

○お問い合わせやご相談は、お近くの都道府県、政令市、中核市等の担当窓口へ